

今週（4月30日から5月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

4月30日(火)から5月10日(金)までの無担保コールO/N物は、引き続き邦銀業態を中心に調達ニーズの強い展開が続いた。大型連休要因により変則的な積み期となっているが、出会い水準に大きな変動はなく、0.07~0.078%近辺での推移が続いた。加重平均レートは、月末要因によるビッド件数の減少から、4/30(火)のみ0.076%となったが、5/1(水)以降は0.077%の横這い推移となった。

ターム物は、1M~3M物で引き合いが散見された。

日銀当座預金残高は、30日(火)に財政資金の支払いやCP買入オペにより、570兆円程度まで増加して始まった。その後は、為替介入と推測される要因や税揚げ、10年債発行などにより大幅に減少する展開となった事で、9日(木)以降は553兆円台での推移となった。

●レポ市場

4月30日(火)から5月10日(金)までのGC O/N物は、0.005~0.115%のレンジで取引された。

30日(火)の前場はオファーが少なく、0.005~0.01%程度の出合いが中心となった。しかし、その後は短国入札などを経てオファーが増加した事でレート水準は上昇した。

SCはカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

4月30日(火)から5月10日(金)までの短国市場は、6Mゾーンが9日(木)の入札を経て水準調整された。

入札については、2日(木)に3M物が実施され、やや甘めの結果となり、その後のセカンダリーマーケットでも軟調に推移した。9日(木)には6M物が実施され、ややテールが流れる結果となったが、その後のセカンダリーマーケットでは小じっかりと推移した。10日(金)にも3M物が実施され、無難な結果となり、その後のセカンダリーマーケットでは堅調に推移した。

●CP市場

4月30日(火)から5月10日(金)までのCP市場は、電気機器、医薬品、機械、その他金融など複数業態から発行が実施された。

大型連休中は全体的に案件が乏しく、市場残高は膨らまなかった事から、4月末には24兆円を割り込み、その後は23兆円台半ばから後半にかけて推移した。

発行レートは引き続き0.1%以上で推移し、銘柄や期間により投資家の運用目線にばらつきが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
4/29(月)						
4/30(火)	38,405.66	0.870	156.82	0.076	0.008	5,703,400
5/1(水)	38,274.05	0.890	157.83	0.077	0.045	5,622,800
5/2(木)	38,236.07	0.900	156.00	0.077	0.075	5,592,700
5/3(金)						
5/6(月)						
5/7(火)	38,835.10	0.870	154.05	0.077	0.069	5,549,900
5/8(水)	38,202.37	0.875	154.88	0.077	0.073	5,567,100
5/9(木)	38,073.98	0.905	155.55	0.077	0.076	5,536,900
5/10(金)	38,229.11	0.905	155.58	0.077	0.094	5,534,300

来週（5月13日から5月17日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
5/13 (月)	4月のマネースtock(日銀 8:50)				
5/14 (火)	4月の企業物価指数(日銀 8:50) 3月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	5Y 23,000億円 5/15発行	交付税借入 13,000億円 5/22借入		4月の米生産者物価指数
5/15 (水)					4月の米消費者物価指数 4月の米小売売上高 3月の米企業在庫 1-3月期のユーロ圏GDP2次速報
5/16 (木)	1-3月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50)	TB1Y 32,000億円 5/20発行	20Y 10,000億円 5/17発行	国有林野借入 499億円 5/27借入	4月の米住宅着工件数 4月の米鉱工業生産・設備稼働率
5/17 (金)	3月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB3M 58,000億円 5/20発行			4月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
5/13 (月)	1,600	▲ 15,200	▲ 13,600	国債補完	34,400		34,400	20,800	TB3M発行▲58,000償還56,000 30Y発行▲9,000
5/14 (火)	2,000	▲ 1,000	1,000				0	1,000	源泉所得税揚げ 社会保障費の払い
5/15 (水)	2,000	▲ 24,000	▲ 22,000	全店共通	▲ 6,500		▲ 6,500	▲ 28,500	5Y発行▲23,000 個人向け3・5・10Y発行▲3,800 個人向け3・5・10Y償還1,300
5/16 (木)	1,500	1,000	2,500				0	2,500	交付税借入▲13,000償還13,000
5/17 (金)	1,000	▲ 10,000	▲ 9,000	CP買入		3,000	3,000	▲ 6,000	20Y発行▲10,000
週間合計	8,100	▲ 49,200	▲ 41,100	—	27,900	3,000	30,900	▲ 10,200	

5/13は日銀予想、5/14以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、積み期の切り替わる週となるが大きな影響はなく、引き続き邦銀業態を中心とした堅調な調達ニーズを背景に、レート水準は横這い圏での推移が見込まれる。債券レポGC O/N物のレート水準は、0.05～0.115%のレンジでの推移が予想される。短国市場は、16日(木)に1Y物、17日(金)に3M物の入札実施が予定されている。また、短国買入オペは、3月12日(火)以降オファーが見送られているが、需給状況によっては、14日(火)に1,000億円程度のオファー額で実施される可能性がある。CP市場は、14日にCP等買入オペが3,000億円予定されており、レート水準を含め参加者の動向が注目される。

主要なイベントは、国内では14日(火)に4月の企業物価指数、16日(木)に1-3月期のGDP 1次速報、海外では、15日(水)に4月の米消費者物価指数、4月の米小売売上高、1-3月期のユーロ圏GDP2次速報、17日(金)に4月のユーロ圏消費者物価指数改定値などの発表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を考慮頂く必要があります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。